

# 自然教育園におけるシジュウカラの繁殖状況

武藤幹生\*・藤村 仁\*\*

Breeding Investigation of *Parus major minor*  
in the Institute for Nature Study

Mikio Mutoh\* and Hitoshi Fujimura\*\*

## はじめに

シジュウカラ *Parus major minor* Teminck & Schlegel は日本全国に分布する留鳥であり、自然教育園でも毎年数多くの個体が繁殖している。園内では2月頃からさえずりが始まり、同時になわばりを作り、3月には繁殖を開始する。巣は主に木の樹洞に作り、内部にはシュロの毛やビニールひも、綿などを使用している。園内ではハシブトガラスが多く、メジロなどではハシブトガラスによる捕食が多く見られるが、シジュウカラの場合樹木の中に営巣するためガラスからの捕食は少ないようである。

シジュウカラは年2回繁殖をすることがあり、自然教育園でも2回目の繁殖をするつがいが観察されている。

## 1. 調査方法

本調査では早朝園内を歩いて行い、シジュウカラのさえずっている場所や行動（威嚇や争いなど）を地図上に記録し、それを1999年3月から5月の間繰り返した。

記録をすべて合わせそのなわばりを検討したが、基本は4月後半のものをなわばり分布図とした。ほかの期間の記録は、基本図にない場所になわばりを作っている場合、それに付け加えるために使用した。さえずりの中にはなわばりが決まる前に暫定的に宣言するものがあり、同じ場所で複数回記録できなかったものは除外した。また調査期間が長いので、基本図からややずれたものなどはなわばりの変化とみなし除外した。

## 2. 考 察

同様の調査が昭和36年（1961年）、昭和45年（1970年）、昭和51年（1976年）にそれぞれ行われており、今回の調査と比較を行った（図1）。

---

\* 国立科学博物館附属自然教育園, Institute for Nature Study, National Science Museum

\*\* 財団法人日本鳥類保護連盟, Japanese Society for Preservation of Birds

昭和36年では37つがいのなわばりが確認されたが、昭和45年には本園西側に高速道路ができ、22つがいと減少した。昭和51年の調査では高速道路のある環境に順応したのか、43つがいと増え、昭和36年の状態よりもかなり密度が高くなっていることが分かった。

今回の平成11年の調査では、55つがいとさらに増加が見られた。しかし、これは本園の外部に巣があり、本園の縁をかすかに餌場に使っている個体も含めたため、巣が園外にあると思われたものを除くと48つがいととなる。なわばりの大きさも昭和51年の結果と大きな変化は見られなかった。

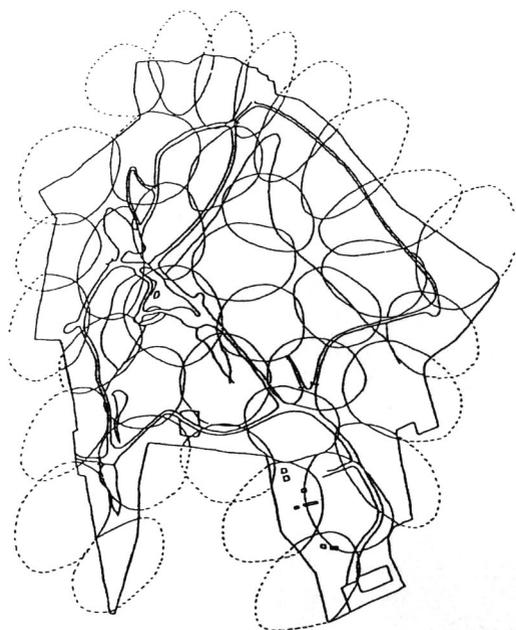
なお、調査期間内のなわばりの変化を以下に述べる。

2月下旬から園内でさえずりが聞こえるようになるが、3月に入ると水辺に近い林縁を優先してなわばりができ始める。その後3月後半まで15程度のなわばりができるが、4月にはいとその数は急激に増加する。徐々に園内すべてになわばりができ、その広さは園の中心部ほどせまく、外周ほど広い傾向が見られた。なお、森の小道に沿う小川や水生植物園などの広い開放面ではさえずりが聞かれることはあるものの、様々な個体が入り乱れており、安定したなわばりはできなかった。その結果、共同の餌場や水浴び場になっているようであった。

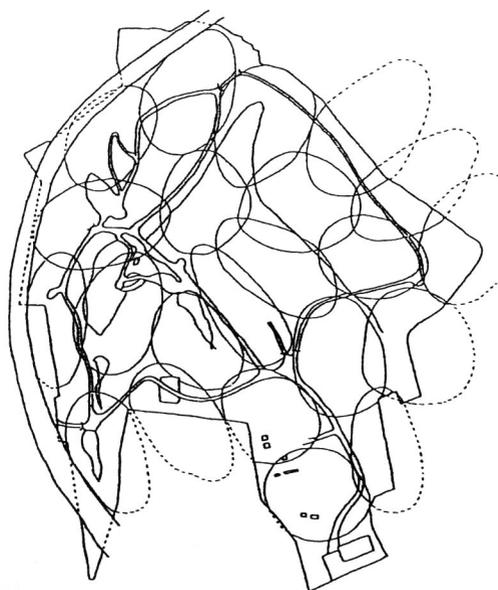
5月に入ると雛が巣立ちをする巣が現れ始め、徐々になわばりは減っていく。2度目の繁殖に入った巣では再びなわばりの防衛が見られるようになるが、すべての巣で2度目の繁殖をするわけではないようであった。

## ま と め

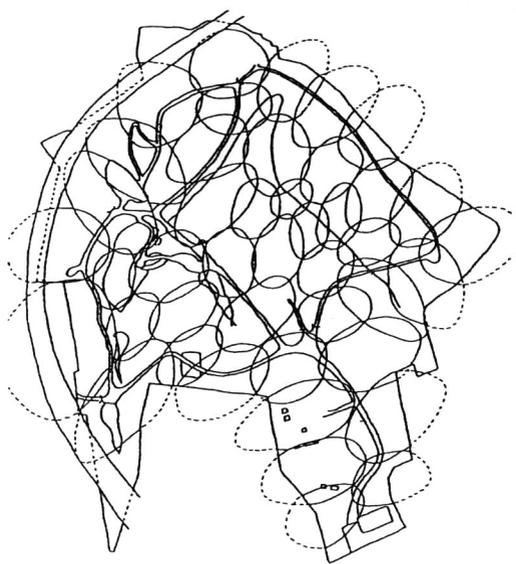
自然教育園内のシジュウカラのなわばりは、環境の変化やシジュウカラの適応によって大きな変動が見られてきたが、今回の調査ではやや密度が高くなったものの、昭和51年の調査と大きくは変わらなかった。昭和51年当時からは植生は変化しているものの、周囲の大きな環境変化はみられない。餌となる昆虫なども今なお豊富で、シジュウカラの繁殖状況は現在比較的安定しているものと思われた。ただし周辺の状況によってまたいつ変動するか予測は難しい。今後も定期的に同様な調査が行われることが重要であろう。



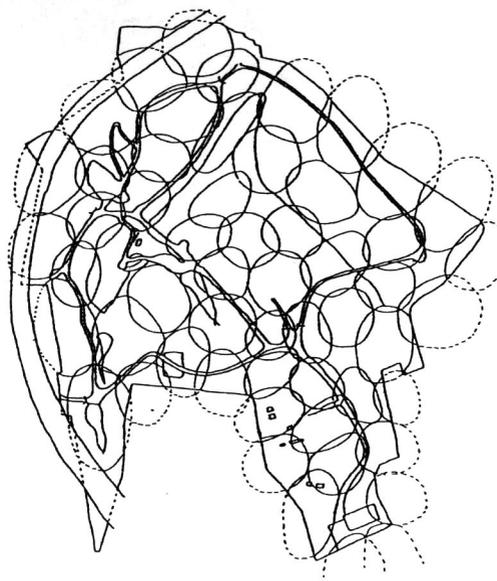
1961年



1970年



1976年



1999年

図1 自然教育園におけるシジュウカラのなわばりの変化



写真1 巣穴から糞の糞を運び出すシジュウカラ



写真2 2001年にシジュウカラが営巣したアカメガシワの樹洞  
(中央の割れ目)

### 参 考 文 献

- 桜井信夫・岡安裕司. 1972. 自然教育園におけるシジュウカラの繁殖個体数の変動について (中間報告). 自然教育園報告, (3): 17-21.
- 八木和主男・千羽晋示. 1981. 自然教育園におけるシジュウカラの繁殖個体数について (1976年度). 自然教育園報告, (12): 115-120.